

転換教育における授業の実践・教材開発について
ーリーガル・スタディを対象としてー

法学部 栗原眞佐子

Development of the courses for the transitional education especially “Legal study”

Masako KURIHARA (Faculty of Law)

Until the academic year 2000, the Faculty of Law proposed that first year students take two introductory courses: “How to study law” and “The legal system”. Through this experience, we became much more aware of the complexity of the introductory education course and tried to improve materials and textbooks to be used in classes. In 1999, we profoundly reviewed the first year education system, and decided to separate the transitional education course from the introductory education one. We thus started a new course of “Legal study” in the year 2001, designed as a transitional education from high school to university. In this article, we discuss several aspects of the new course: its aim, its content, the production of textbooks, the introduction of an advisory system, the evaluation by students through inquiry. Checking at these points, we also examine our future objective.

Key words: study skills, adviser system, submission of report, presentation, improvement of teaching

(1) 「リーガル・スタディ」開設の経緯

「リーガル・スタディ」は平成13年度から開講された、高校から大学への転換教育科目である。法学部では、これまで新入生向けに「法学学習法」と「リーガル・システムA,B,C」を開講してきたが、「法学学習法」と「リーガル・システムC」をスタディ・スキルズ科目として位置づけ、名称を「リーガル・スタディ」に変更した。「リーガル・スタディ[I]」は第1期、「リーガル・スタディ[II]」は第2期開講と、各2単位の授業である。「リーガル・スタディ」は転換教育科目であるので、聴講は1年次学生に限っているが、他学部 of 学生も受け入れている。

なお、「リーガル・システムA」および「リーガル・システムB」については、従来通り、[A]は、法学科の新入生を主な対象とし、これから法学を学ぼうとする学生に対して、法の基本的な概念や我が国の司法制度の概要を教える。[B]は法政コミュニケーション学科新入生を主な対象とし、現代社会に生起する様々な問題を分析・理解させることを目的としている。

これらの2科目は、いずれも1年次第2期以降の専門科目を受講するための導入科目である。

(2) 講義の目的

リーガル・スタディは、[I]と[II]を併せて聴講する必要がある。[I]では、高校において、受験を目的として主に知識偏重型の勉強に専念してきた新入生の思考を柔軟にして、大学での学問に最低限必要な学習技術（文章要約法・読解法・ノートテイキング・文献検索など）を身につけることを目標にしている。[II]では、[I]の学習成果をさらに多様な方向へと発展させるとともに、より具体的に法学・政治学の教材を用いて、講義と小クラス演習を通して学習技術を習得させる。

(3) 講義方法と年間予定表（資料1参照）

「リーガル・スタディ」の特徴は[I]・[II]を通じて大講義室講義と小クラス演習を組み合わせた授業形態としていることである。小クラスは1年次学生を

1クラス18名の15クラスに編成している。

クラス担任は、自動的にそのクラスの学生のアドバイザーとなる。クラス担任は、新入生が大学での学習に迷いを感じたときに、適切な助言を与え、大学生活を軌道に乗せる手助けをする。

講義は、まず大講義室において文章要約法、読解法など大学において勉強するために必要な技術を教える講義を受けてもらい、講義資料集や指定する図書をもとに、要約や書評、プレゼンテーション用レジュメを提出してもらう。小クラス演習でそれらを中心に添削を受けたり、講義や討論をすることにより、学生一人一人が大学で学習する上で、必要な知識と技術をしっかりと身につけてもらうことが出来るように配慮している。

(4) 教材について

平成13年度はこの授業のために、テキスト「講義資料集2001」を作成した。初年度ということもあり、授業方式の検討や教材の選定など、担当教員の意見を交えた上で、試行錯誤しながら作成した。

平成14年度のテキスト「講義資料集2002」はその経験を踏まえて、担当する教員がそれぞれの授業のために執筆している。その内容は、文章の要約法、読解法、作成法、文献検索、レポート作成法、解釈の基礎（法令解釈の基礎・政治における解釈）の講義のためのレジュメと資料、要約のため論文と判例を収録し、巻末に新入生に薦める図書を掲載した。（平成14年度の「講義資料集2002」は教養教育実施委員会経費で作成した。）

なお、各講義・小クラスにおいて扱われるテーマ、資料、テキストは統一されている。この他に実習用の図書を2冊選定し、参考図書を4冊選定した。

(5) 学生の評価（アンケートの内容と結果は資料2参照）

2002年度の10月に実施したアンケートの結果によると、大教室講義と小クラス演習に分けて実施している点については、80%の学生が支持し、クラス担任制については、90%の学生があった方がよいと答えている。この結果から見て、大教室講義と小クラ

ス演習を併用しながら実施している点については、成果があったと思われる。

また、よかった点については、法学に対する関心が高まった、要約は大変であるが、自分にとってプラスになった、人によって様々な考えがあることを実感した、クラス担任と話す機会がもてたなどの意見が多かったが、その反面、課題が多すぎる、たくさんの教員がそれぞれ異なる講義をしたので、まとまりがなかった、大クラスと小クラスの割合が逆の方がよい（小クラス演習が多い方がよい）という意見も出された。

評価についての具体的な意見は次の通りである。

<全体>について

よかった点

- ・大学での勉強の方法がわかった。
- ・法学に対する関心が高まった。
- ・法学部生としての基本的な力が培われた。
- ・自分がそれまで持っていた考えが覆されたりしたことがよかった。
- ・今後の専門科目への糧になると思う。
- ・自分の考えを文章化する機会が多かった。
- ・要約の力がついた。
- ・人によって様々な考え方があるのがわかった。
- ・ものの考え方に柔軟生が必要であると思った。
- ・教師のひとりよがりなところもあったが、全体的に話は面白かった。
- ・はじめのうちは何をやりたいのかわからなかったが、後半、面白くなってきた。
- ・大クラスと小クラスに分けたのはよかった。
- ・新しい趣向を受け入れた授業だと思う。
- ・全体に学生の反応を見ながら講義を進めていた点がよかった。
- ・担当教員の個性があらわれるので興味深いと思う。

不満な点

- ・時々話がまとまっていなくてわかりにくいところがあった。
- ・内容が初歩的すぎるものがあった。
- ・講義によって難易度がはげしい。
- ・専門科目以上に大変だった。

- ・成績評価基準がよくわからない。
- ・大クラス・小クラスの割合が反対の方がよかった。
- ・もっと学生と対談する時間を持ってほしい。
- ・方法論の説明は非常に興味深かったが、少し漠然としすぎていたような気がした。言いたいことは非常によくわかるのだけれど、具体的にはどうしたらいいのか、と思う部分が多々あった。
- ・先生の話が脱線していたのが目立った点が不満である。

＜大クラス講義＞について

よかった点

- ・ノートのとり方、思考法、文章の書き方、図書の調べ方、レポートの書き方など基本的なことを学べた。
- ・法学の基礎の部分のみをやったので、特に抵抗もなく、授業を受けられたことはよい点である。
- ・いろいろな講義が聴けてよかった。
- ・文章の要約法について、例をあげながら説明したので、わかりやすかった。
- ・山下・水谷先生の話は新たな発見が多かった。

不満な点

- ・前半では先生たちの議論を何度も聞かされた。興味深い内容もあったが、つまらないこともあった。
- ・学生を参加させるなど、少し工夫をしていただきたい。
- ・教授の話は（恐らく高尚すぎて）あまり自分のものに出来なかった。

＜小クラス演習＞について

よかった点

- ・様々な人の意見を聞く事が出来、自分の考えに培われる部分があり、勉強になった。
- ・クラス担任と話す機会がもてた。
- ・担任の先生と親しくなれたのでは楽しかった。
- ・先生と授業時間外での関わりも多くて楽しかった。
- ・自分自身で考え、それを発言出来た。
- ・判例の要約は難しかったが、役に立った。
- ・個別に採点され力がついた。
- ・少人数で先生との距離が近かったので得られるもの

が多かった。

- ・もっと増やして、充実させてほしい。

不満な点

- ・要約文をきちんと個別に添削してくれる先生がいる一方で、ほとんど直してくれない先生もいるので、少し困惑した。
- ・クラスの雰囲気があまり好きになれず、小クラスが大変づらかった。担任とも合わなかったというわけではないが余り好感をもてなかった。レポートの手直しをしてもらいたかったが、個別に添削がなく、小クラスの意味があまりなかったように思う。
- ・時間が足りなかったし、2限の最初まで食い込んだので、2限に遅れてしまった。
- ・何回か要約レポートを課されましたが、それについてお願いがあります。解答例を出して欲しいという事です。正解は一つではないと思うので、あくまでも解答例です。一生懸命やっても、最後にコメントが書いていないとがっかりします。そのために小人数制の授業があるのだと思うのですが、先生を選べないのが残念である。

＜課題＞について

よかった点

- ・課題は大変づらかったが、自分にはプラスになったと思う。
- ・図書の調べ方は勉強になった。
- ・宿題に関しては不満を漏らす声も幾分聞かれたが、1冊であれば自分にとっては許容範囲内であり、やってもよいと感じた。
- ・読書をする機会を与えられ、よかった。
- ・あまり本に触れる機会がなかったなので、本を読むことが強制でありよかった。

不満な点

- ・課題の量に対して授業時間が少なかった。
- ・1年のうちから判決文を読むのは少し苦しかった。
- ・毎回の実習課題の教材が難しかった。

＜教材＞について

- ・購入しなくてはならないものが多い。
- ・講義資料集が横に開くものなので扱いづらい。

<設備>について

- ・教室が広がったのでよかった。
- ・教室が寒かった。
- ・大クラスの時、黒板が見づらかった。

<その他>

- ・金曜1限はきつい。
- ・パソコンの実習は役に立った。
- ・パソコンの使い方について更に詳しい説明がほしい。

(6) 今後の課題

①大講義室講義と小クラス演習の講義内容について

この科目は転換教育として2001年度より実施しているが、内容や方法についての知識・経験がこれまでなかったため、担当教員によるFDを開催し、そこでの議論をもとに試行錯誤しながら実施してきた。今後は、担当教員と学生のアンケート調査を基に大講義室での講義と小クラス演習のバランスを考えた上で、これから法学と政治学を学ぶ学生のために、文章の要約法や判例の読み方、プレゼンテーションなど、必要な技術を身につけてもらうために、よりよい内容にしたいと思っている。

②教材の選定について

教材については、統一したものを使った方がよいという意見がある一方、クラス担任に任せた方がよいという意見もある。このことについては、内容の妥当性や成績評価の公平性も考慮に入れ、統一したものを使っている。また2001年度の夏期休暇に法学部学生に読んでほしい3冊の本(新書版)を指定し、文章要約の課題として提出したが、多過ぎたという反省もあり、2002年度は1冊を指定した。夏期休暇の課題を契機として後期の受講者が減少する傾向があることを考慮すると、課題の内容については、なお一層検討する必要がある。

③教員の負担増について

小クラス担任の15名は、18名の学生が提出する全てのレポートや要約文を読んで添削、講評を行わなければならない。負担量は大きいですが、このきめ細かな小クラス教育が成果を上げることを期待している。

④感想・批判・質問票の提出の減少

大講義室講義では、毎回学生に「感想・批判・質問」を書かせ、質問は次回の講義で答えるようにしているが、提出する学生が減少している。これは出席票ではないので強制力はないが、この目的は講義の後、その講義について考える時間を与えることにある。自分の考えをまとめる訓練にもなるので積極的な活用が望まれ、いかにして学生の取り組みを督励できるかが現在の課題の一つである。

(付記) 学生による授業評価アンケートのデータ分析は大学院法学研究科の和泉田保一君、山村一宏君の協力を得た。記して感謝する。

【附言】

本稿は、教養教育実施委員会経費(教育改善研究開発調査経費)の配当を受けたプロジェクトの結果報告である。

【資料1】 講義日程

第1期 リーガルスタディ[Ⅰ]

課題はクラス担任に提出のこと

○ 少人数クラス

		計画	担当者	内容	備考
①	4/12	オリエンテーション	クラス担任	講義日程・内容の説明	実習[Ⅰ]課題説明
2	4/19	ノート・テイキング	山下・水谷	コンピュータを買う・使う	
3	4/26			講義の聴き方・ノートのとり方	実習[Ⅰ]課題提出
4	5/10			実験講義とノートとり実作	
⑤	5/17	実習[Ⅰ]	クラス担任	内容の説明、講評	
6	5/24	文献読解法・文章要約法講義	駒宮	要点整理・論点抽出	実習[Ⅱ]課題説明
7	5/31	文献検索法	栗原	図書館の100%利用法	*課題
8	6/7			文献の探し方(1)	実習[Ⅱ]課題提出
9	6/14			" (2)	*課題提出
⑩	6/21	実習[Ⅱ]	クラス担任	内容の説明、講評	実習[Ⅲ]課題説明
11	6/28	想像力・創造力	山下・水谷	レポートの書き方	
12	7/5			楽しいレポート実作(1)	実習[Ⅲ]課題提出
13	7/12			" (2)	
14	7/19	文章作成法 講義	駒宮	答案の書き方・作文技術	
⑮	7/26	実習[Ⅲ]	クラス担任	内容の説明、講評	

夏休み課題 イエーリング『権利のための闘争』(村上淳一訳)の書評 3000字前後

10月4日提出

講義教材 ②③は必ず購入のこと

① リーガル・スタディ2002講義資料集

② 金子・高橋・山口『グローバリゼーションと戦争責任』岩波ブックレット 2001 ¥440

③ イエーリング『権利のための闘争』岩波文庫 1980 ¥483

実習[Ⅰ]	竜崎喜助「裁判をめぐる市民と弁護士」(判例タイムズ500号) 1983 (リーガル・スタディ2002講義資料集所収)	1000字前後に要約 4月26日提出
-------	---	-----------------------

実習[Ⅱ]	玉串料違憲判決 最大平成9年4月2日(民集51巻4号1673-1747頁) (リーガル・スタディ2002講義資料集所収)	1000字前後に要約 6月7日提出
-------	---	----------------------

実習[Ⅲ]	金子・高橋・山口『グローバリゼーションと戦争責任』岩波ブックレット	1000字前後に要約 7月5日提出
-------	-----------------------------------	----------------------

第2期 リーガルスタディ[Ⅱ]

課題はクラス担任に提出のこと

○ 少人数クラス

		計画	担当者	内容	備考
1	10/4	レポートの作成	兵藤	Word/Excelの使い方	夏休み課題提出
2		情報処理実習	須川・五百川	Word/Excelを使い、資料分析	10/7～10/18
3					月～金 1・2限
4	10/25	解釈の基礎(法令)	西野	解釈についての理解、その方	
5	11/1	(政治)	谷	法を身につける	
⑥	11/8	文献講読	クラス担任	夏休み課題の解説、講評、	
⑦	11/15			その他	
⑧	11/22	プレゼンテーション	クラス担任	自由課題、報告	
⑨	11/29				
⑩	12/6				
⑪	12/20				
⑫	1/10				
⑬	1/24				

※前期とは形式的に区別されているので、前期に不合格の場合もめげずに受講すること。

⑧～⑬ プレゼンテーション 自由課題

例

I ワールドカップの経済効果
II 失業率とその推移
III 進む女性の社会進出について
IV 児童虐待について

【参考書】

山下・水谷・栗原編『大学生のやり方』	尚学社	2001	¥2,000
西野喜一『法律文献学入門』	成文堂	2002	¥1,800
木下是雄『レポートの組み立て方』	筑摩書房	1990	¥1,260
吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』	ナカニシヤ出版	2000	¥1,575

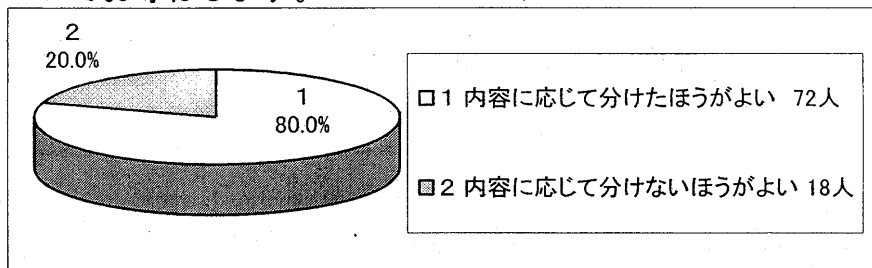
【資料2】 授業評価アンケート

問1 あなたの所属はどこですか。

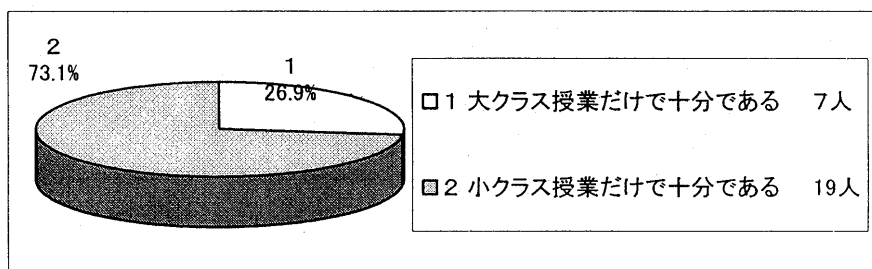
- 1 法学部法学科 (55人 61.1%)
2 法学部法政コミュニケーション学科 (35人 38.9%)

問2 この授業の形態についてお尋ねします。

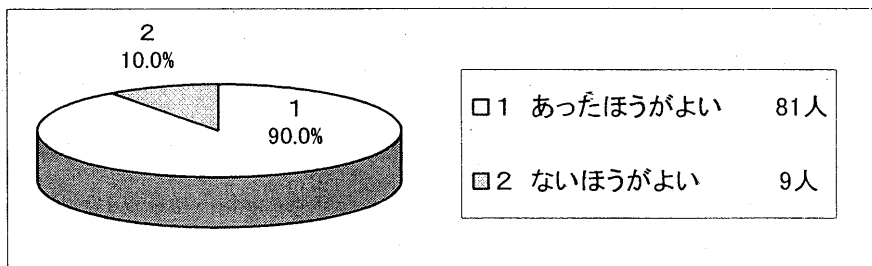
大クラスの授業
と小クラスの授業
に分けて実施
していますが、
これについてお
尋ねします。



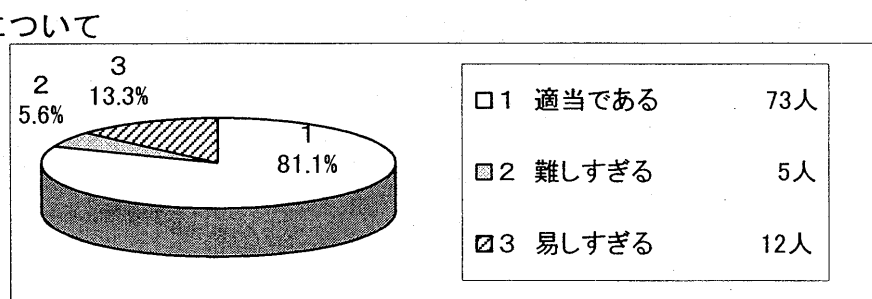
問3 問2で2を選んだ人にお尋ねします。



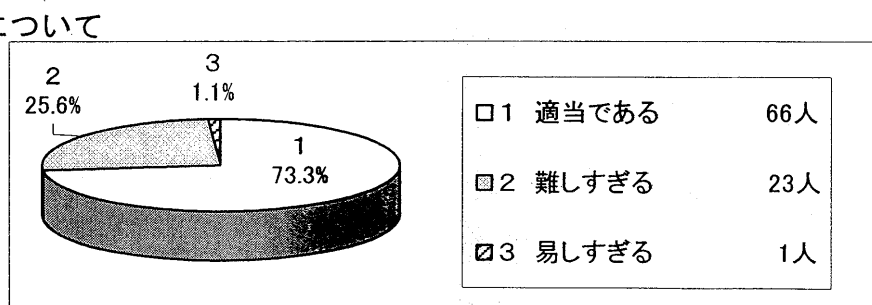
問4 クラス担任制についてお尋ねします。

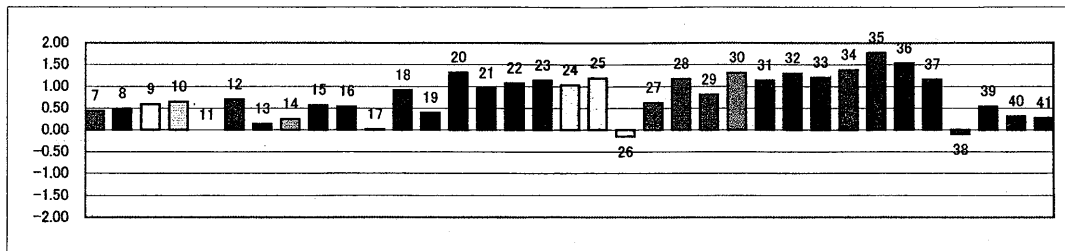


問5 大クラスの授業について



問6 小クラスの授業について





質 問		点数 2 (人数)	点数 1 (人数)	点数-1 (人数)	点数-2 (人数)	平均点	回答数		
大クラス 授業の内容と方法について	授業の内容について	7 授業の主題(テーマ)に正しく沿って授業が行われた。	6	57	22	4	0.44	89	
		8 授業の内容は興味深かった。	4	61	22	2	0.48	89	
		9 シラバスは適切に書かれていた。	7	62	19	2	0.59	90	
		10 授業はシラバスのとおりに進められた。	15	55	13	7	0.64	90	
		11 授業の内容・説明はよく整理されていた。	4	40	36	6	0.00	86	
		12 この授業により、自分の考えがつかかわれたり、得るところがあった。	19	47	23	0	0.70	89	
		13 この授業の内容は、易しかった。	4	45	37	2	0.14	88	
		14 この授業の内容をさらに展開した深い勉強をしたい。	7	47	31	4	0.25	89	
	授業の方法について	15 授業の教員の話し方(速さ、声の大きさ、明確さ等)は適切だった。	10	55	21	2	0.57	88	
		16 授業の黒板、OHP、配付資料などの使い方は適切で、文字や図表は見やすかった	17	45	23	4	0.54	89	
		17 授業は学生の反応を見ながら進められていた。	9	36	33	10	0.01	88	
		18 授業は教員は熱意をもって授業をしていた。	19	56	12	1	0.91	88	
		19 授業は教員が学生の質問を促し、学生の意見に耳を傾けようとしていた。	12	47	24	6	0.39	89	
		20 授業の主題(テーマ)に正しく沿って授業が行われた。	30	57	1	0	1.32	88	
		21 授業の内容は興味深かった。	16	62	10	0	0.95	88	
	小クラス 授業の内容と方法について	授業の内容について	22 シラバスは適切に書かれていた。	12	73	3	0	1.07	88
			23 授業はシラバスのとおりに進められた。	22	61	5	0	1.14	88
			24 授業の内容・説明はよく整理されていた。	21	58	9	0	1.03	88
			25 この授業により、自分の考えがつかかわれたり、得るところがあった。	31	49	7	0	1.20	87
26 この授業の内容は、易しかった。			5	30	49	2	-0.15	86	
27 この授業の内容をさらに展開した深い勉強をしたい。			12	54	21	1	0.63	88	
28 この授業の教員の話し方(速さ、声の大きさ、明確さ等)は適切だった。			25	58	5	0	1.17	88	
授業の方法について		29 この授業の黒板、OHP、配付資料などの使い方は適切で、文字や図表は見やすかった。	20	50	14	3	0.80	87	
		30 この授業は学生の反応を見ながら進められていた。	35	48	4	0	1.31	87	
		31 この授業は教員は熱意をもって授業をしていた。	26	55	7	0	1.14	88	
		32 この授業は教員が学生の質問を促し、学生の意見に耳を傾けようとしていた	36	46	5	0	1.30	87	
		33 この授業は授業時間外にこの授業の担当教員と面会または質問(電子メールでも)をしたことがある。	18	70	0	0	1.20	88	
		34 (問33で「あてはまる」と答えた人だけ)面会または質問をしようとしたとき、担当教員は気持ちよく接してくれた。	12	11	0	1	1.38	24	
		あなたのこの授業の受講態度について	35 この授業にはどのくらい出席しましたか。	72	14	2	0	1.77	88
36 この授業では授業時間外の学習(予習・復習等を含む)が求められた。	46		40	0	0	1.53	86		
37 (問36で「あてはまる」と答えた人だけ)求められた授業時間外の学習を指示通りに行った。	24		27	3	3	1.16	57		
38 自ら進んで、この授業のために授業時間外の学習をした。	12		28	28	16	-0.10	84		
この授業全体について	39 この授業は総合的に満足のゆくものであった	10	54	16	6	0.53	86		
	40 この授業の受講を友人や後輩にも勧めたい。	12	42	25	7	0.31	86		
	41 この授業は、私が受講した授業の中で良いほうにはいる。	7	46	25	6	0.27	84		